

柘植地域

まちづくりだより

第282号

発行

柘植地域まちづくり協議会事務局
三重県伊賀市柘植町一〇六四七番地
(柘植地区市民センター内)

〒五一九一四〇二

電話 四五八八八〇 FAX 四五八八八三
2022(令和4)年7月1日(金)



柘植地域俳句コーナー
挿し苗を
見守るごとく

鷺不動

中嶋 國博

令和4年度・第一回「防災委員会」開催
〔柘植地域まちづくり協議会〕

5月30日(月)20時〜柘植地区市民センターにて、令和4年度第一回目の「防災委員会」が開催されました。

松山副会長の司会進行に依り、町田会長(防災委員長)の冒頭挨拶の後、新規防災委員(委嘱者)の自己紹介からスタート。新任の杉野 伊賀支所長、藤本 伊賀消防署東分署長から自己紹介挨拶が有りました。

その後、服部 防災事務局長から事項書に沿って説明案内有り、①令和4年度・防災委員会事業計画(案)について、年間行事予定・事業計画の概要 ②第一回 初動リレー訓練(案)について、訓練実施計画(案) ③柘植地域自主防災マニュアル/第4篇 感染症対策編(追録案)について・別添「避難所運営共通マニュアル 感染症対策」

次に、伊賀市総合危機管理課・竹岡主査前川主任より「伊賀市防災・情報アプリ」(ハザードン)に関して、登録方法等々の



概要説明が有りました。
当日は、12区・自主防災委員、まち協役員・公募事務局員、指定避難所施設管理者(保育園長・小学校長・中学校長)警察消防責任者、行政から伊賀市総合危機管理課・伊賀支所長・人権センター所長・市民センター長、総計33名が出席しました。





『さざんか句会』の御紹介

さざんか句会のこの頃

浜地 和恵

「宮田正和先生のご指導で句会を開くから」との俳誌「風」同人の故外山多津さんのお誘いのままに入会させて頂いたのは、昭和五十三年の初冬、さざんかの咲く頃でした。

それで句会名を『さざんか』とし、十二名の集り、また、まだほとんどが四十代で仕事を持って居りましたので、月一回、夜の開催でした。ふり返るとあれからもう四十数年が経ち、改めて歳月の流れる早さを実感しています。

その後は、会員の出入りや、残念ながら逝去された方もあり、現在は施設の整った柘植地区市民センターにて六名が、毎月一日を原則として句会を開き、「山繭」主宰の宮田正和先生のご指導を頂いております。会員の年令は六十八歳から八十七歳(私)と幅広いのですが、自由に、平等に、闊達に、楽しく評価し合えるのが、この句会の取得と自負しています。

ごく最近の句会のニュースは
俳人協会主催 令和四年度 関西俳句大会
俳人協会会長 大串 章先生 選
特選 風呂吹きを好み何時しか傘寿なる
〈西野 登志子〉
を受賞された事です。

また令和三年度の「山繭賞」「あはうみ沖島」(岡島 千秋)の二十句が応募作中第一位となり受賞となりました。その中の一句を記します。

ひと尋が島の本みち紅椿
どれもわが句会の大きな喜びです。まだまだ、それぞれの会員の活躍は書き足りない思いますが、これを機に句会の皆様と共に「山繭」のめざす「清新、真剣」を指針に

一日、一日を大切に俳句のある生活を楽しみたいと思っています。

『ふるさと音頭保存会』御紹介

代表 澤村 眞子

『ふるさと音頭保存会』は、伊賀町音頭や芭蕉音頭など、ふるさとに残る音頭を保存・伝承していく事を一つの目的として誕生



しました。
 コロナ禍になる前までは、地域の祭りやイベントなどに参加したり、伊賀市内の他地域の保存会との交流をしたりしてきました。

毎月第二火曜日の午前十時から十一時半頃迄、柘植市民センターで活動しています。講師の服部聖子さんには、伊賀の音頭の他に日本各地の民謡に合わせた踊りや新しい唄に合わせた踊り、また少しですが、日本舞踊の基本なども教えてもらっています。

ゆるやかに見える踊りですが、いい運動になります。動作を覚えるのに頭も使います。唄に合わせて皆で踊ると、気持ちも明るくなってきます。とてもいい健康法です。

毎回ではありませんが、浴衣など着物を身につけての練習もしています。皆で着付けを教え合ったり、帯を結び合ったりしながら楽しんでいきます。

ダンスの肥やしになっていた着物の出番もあります。

会員は皆七十歳以上になり、体力に合わせて踊る場面もありますが、お互いを尊重し合い、和やかに活動しています。なつかしい伊賀町音頭を踊ってみようとか、体を動かすにいいこうと思われる方、入会をお待ちしています。

ロマンあふれる柘植の歴史

第3回文化講演会／教育文化部会

柘植まちづくり協議会・教育文化部会に於いても、コロナ禍で約2年間延期を余儀無くされておりました『柘植の歴史と文化』の「第3回文化講演会」を漸く開催する事が出来ました。

【開催日時】6月18日(土)午後1時半

【場所】柘植地区市民センター・ホール

【講師】田中重之さん

田中先生は高校で教鞭をとられた後、柘植の歴史文化を深く研究されており、第1回第2回の講師も努められ、これらの講演をもとに冊子『柘植の昔ばなし』を編集されました。

【テーマ】『柘植の歴史と文化(第3回)』

◆平宗清と柘植のかかわり

◆その子孫の歴史と芭蕉さんへのつながり

◆柘植姓の発祥と現在まで

当日の参加者は42名が参集。午後1時半から3時過ぎ迄、田中先生の講演を皆さん熱心に聴講された次第です。

演題は1、平宗清と柘植との関わり

2、その子孫の歴史と芭蕉さんへの繋がり

3、柘植姓の発祥と全国の柘植氏

が今回の主要演目。因みに前2回のレビューは、第1回(令和元年11月)柘植の地名の謂れ/都美恵神社の由緒/壬申の乱
 第2回(令和2年2月)斎王群行/徳川家康の伊賀越え/柘植駅の開業、でした。
 当日は伊賀上野ケーブルテレビの取材も入り6月21日19時から放映されました。



柘植中学校『つげまち聞き取り学習』

市民センターへ来訪／6月21日

第一学年では「総合的な学習の時間」に柘植地域との関わりを深める学習の一環として、自分達の成長を育み、暮らしを支えてくれて居る人達との出会いを通して、思いを聞く事で、自分の町を見つめ、その上立って将来の自分を想い描いて欲しいという趣旨で昨年に引き続き生徒達が市民セン



ターに
来訪様
々な質
問が出
た次第
です来
訪の狙
いは①
地元を
焦点を
当てつ
げまち
の文化
や暮ら
しを支
えて来
た人々
と出会
い、思
いを知
る事を

通して、改めて地域の良さを確認する。②
将来を想い描く中で、どの様な地域社会が
住み良いか自分の生活と照らし合わせて考
える。此の2点が主旨です。

柘植駅前 夏モードに 産業交流部会

6月18日(土)午前、柘植駅を守る会、
笑みの会、柘植の未来づくりフォーラムら
の各有志により、恒例の柘植駅構内や駅前
の美化作業を致しました。令和4年度滋賀
県草津線サポーター事業も活用した取組で
乗降客や道行く人たちに柘植駅の存在を確



かめて
頂けれ
ばと願
っています。
伊賀市
ひいて
は三重
県の玄
関とし
て、こ
れから
も柘植
駅をア
ピール
してい
きます。
★

☆ 編集後記 ☆

▼【夏草や 兵どもが 夢の跡】へ松尾
芭蕉「奥の細道」・元禄二年(1689)年
6月29日、芭蕉四十六歳の作で、333
年前、岩手県平泉にて詠まれました。

「兵(つわもの)ども」とは、兄・頼朝
に追われた義経や其の家来、平泉で栄華を
誇った奥州・藤原一族を指し、「夢の跡」
は全てが過ぎ去って仕舞い、今はもう何も
無く、藤原家繁栄の痕跡すら跡形も無い。
其の時代から500年が経過。今は、ただ
夏草が青々と生い茂る風景を目の当たりに
して、「全ては短い夢の様だ」と人の世の
儚さを詠んで居ます。

▼源平の盛衰記を描いた「平家物語」冒頭
『祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響き有り。
沙羅双樹の花の色、盛者必衰の理を表す。
驕れる人も久しからず、ただ春の夢の如し。
猛き者も遂には滅びぬ、偏に風の前の塵に
同じ。』

▼「独裁者」の末路は、洋の東西を問わず、
必ずや破滅し、滅亡するのが必定。

ウクライナを侵略暴虐し、何万人もの民
を殺害したロシアの「独裁者」の末路も又
同様。力に拠る暴挙殺戮が断じて許される
筈が無い事を、近い将来、必ず歴史が証明
する事は間違い有りません。

▼権力を盾に驕り高ぶる者はいずれ滅びる
「盛者必衰の理」は永遠の真理です。(清水)